

虚子記念文学館投句特選句・令和四年一月

稲畑汀子・稲畑廣太郎 共選

鎮魂のトランペットや星冴ゆる 兵庫 池田雅かず

ひとひらをたたみ葩餅となる 兵庫 中村恵美

海風の撫で上げてゐる水仙花 兵庫 辻 桂湖

踏み入れば淑気みなぎる館の庭 兵庫 平田 恵

病窓に快癒の力四温晴 兵庫 高野さち

うつくしき言の葉の国かるた取る 神奈川 進藤剛至

希望また早梅の香に気づくより 兵庫 玉手のり子

人動く度臘梅の香の新た 兵庫 岩水ひとみ

オイオチバタマシヒロドコニオイテキタ 神奈川 平野孤舟

クイーンの払い一閃かるた会 兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和四年一月

娘の手添ふ磴の一步の冬ぬくし	奈良	河村久美子	会ひ得ぬに賀状は続き五十年	大阪	林 曜子
初みくじ一番大吉引き当てり	兵庫	槌橋眞美	その中に芹よく香る七日粥	大阪	山田 天
早梅や明星近き丘上る	兵庫	川村ひろみ	初夢に二兎追ふことを許しけり	兵庫	岸川佐江
汀子師が導くやうな初句会	石川	村上秀吾	蓋を取る楽しみのある雑煮かな	兵庫	吉村玲子
うつすらと積もる白さや寒の入	石川	辰巳昌彦	リハビリに坂道選ぶ寒の朝	奈良	堀ノ内和夫
風花を綿菓子と言ふ子らのくち	三重	池本準一	十センチの雪かきほんま楽ちんよ	京都	杉森大介
ひたすらに御快癒祈る初句会	兵庫	森岡喜恵子	元気取戻して欲しや春を待つ	兵庫	田中節夫
照りかげり風花白く空青し	三重	松村咲子	万両の苔むす水車灯しをり	大阪	田邊育子
待つ人の居らぬ自宅や寒の入	大阪	山下幸典	虚子館の庭にめでたき初雀	石川	辰巳葉流
風花や六甲の黙揺り起こす	大阪	石橋玲子	くちびるを噛みし少年龍の玉	愛知	小野 薫
寒の星心ひきしめねばならぬ	大阪	立入宮子	失せしものすべて見つかり年迎ふ	兵庫	三木雅子
参道も千木も遊び場初雀	兵庫	小柴智子	初鏡幸せの皺母偲ぶ	兵庫	雲山緋毬
生け捕りのごと噴水の凍りけり	兵庫	齊木富子	寒紅は今日から人と成る証	兵庫	道中義一
雪降りぬ遊び上手な子等に降る	兵庫	山之内倫子	捨てきれぬものそのままに年迎ふ	兵庫	山崎渺美
笑顔よき嫁の加はり初詣	大阪	杉山千恵子	新年菓星の数ほど配られし	兵庫	柄川武子
松の内松の朝影芦屋浜	岡山	小幡恒雄	初詣常の社に肅として	兵庫	山岸正子
寒雀まるまる太る平田町	兵庫	藤井啓子	冬の池末まで広がる波紋かな	千葉	樽谷幸龍
初蹴りのボール伸びゆく大御空	香川	葛原由起	初夢を見ることもなく古稀となる	兵庫	高市敦之
子の家に一慶事あり寒の晴	大阪	多田羅紀子	前なる人枯芝連れて詣けり	東京	木村三球
下の句の余韻の間かるた会	兵庫	武田優子	蓋といふ蓋開けにくし寒土用	兵庫	キートスばんじょうし
前傾に一声を待つ歌留多会	兵庫	塚本武州	糸綴ちの小さき針穴日脚伸ぶ	兵庫	奥野悦子
歌がるた不良少女の得意顔	兵庫	河野ひろみ	紅白のちやんばらめくや梅が枝	石川	伊東弥太郎
一邸に消えぬ寒灯ありにけり	兵庫	奥田好子	息を吞むだるま夕日の冬の刻	兵庫	足立朱麻
早梅のほころび初めし知らせあり	兵庫	山村千恵子	待春の森の鼓動の美術館	兵庫	田村恵津子
よろこびの日へと踏み出す初暦	兵庫	中井陽子	ストーブのおでん遠火に父待てり	神奈川	小堀公美子
颯爽と歌留多をさらふ細き指	兵庫	涌羅由美	亡き友の夢を抱きて山眠る	東京	宮村土々
歌留多取赤子が這つてゆきにけり	兵庫	山田佳乃	空の色閉ぢ込めてをり初氷	神奈川	金子三奈乃
鳥の鳴き水音の館の御慶かな	兵庫	辻田あづき	校庭に子等の声無きお正月	埼玉	土井洋子
合格を願ふ子に添ひ初電車	兵庫	永沢達明	吞兵衛の七種はやす休肝日	兵庫	阿曾宏之
	兵庫		と見かう見我先に鳴く寒雀	兵庫	江川由美